

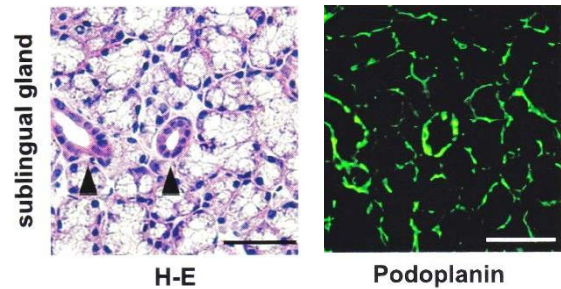
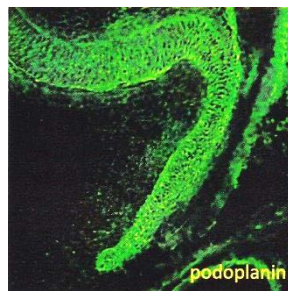
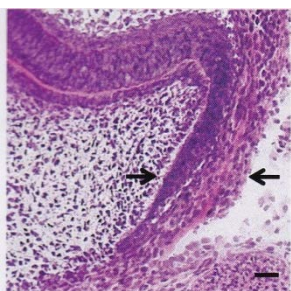
障害者歯科学分野

障害者歯科学分野では、物事を分析的に見ようとするマインドをもって臨床を実践する歯科医師を育てることを目標としています。基礎医学を深く理解したうえで臨床に取り組みたいと考える人、臨床における課題を解決する力を身につけたいと考える人が当分野の大学院へ進学することを期待しています。

基礎研究

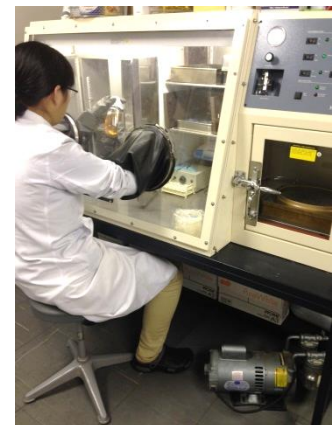
● ポドプラニンの局在

唾液腺や歯胚のほか、脳の脈絡叢におけるポドプラニンの局在とその役割を解析しています。



● 口腔内の微生物に対する免疫応答能を獲得する機構

Porphyromonas gingivalis や *Candida albicans* に対する免疫応答能を宿主である個体はどのように獲得するのか、免疫応答は生体にとって本当に宿主に有利にはたらくのかなどについて解析しています。



臨床研究

● 障害児の口腔保健に関する調査

肢体不自由児特別支援学校の生徒を対象に、歯科疾患罹患状況とかかりつけ歯科医の有無との関連や、歯の萌出遅延の発生率が高いこととその要因を成長発育や食形態（咀嚼運動）の観点から調べています。

歯の萌出遅延がみられた頻度 (未萌出歯を有する者の数/検査者数)	
小4~6	2/13=15%
中1~3	5/24=21%
高1~2	8/26=31%

● 歯科治療を受け入れる過程の心理変化

障害者歯科診療における障害とは、検査や治療等の歯科診療の遂行が困難であることに由来します。そのために行動調整法が適用されますが、薬物によらない行動変容を歯科診療において達成するためには、患者の心理を知る必要があります。それを解析するための方法論を確立するために、発汗を指標とした研究を行っています。

体験による不安の軽減

